
令和2年度
学生募集要項

2020

大学院美術工芸研究科

修士課程

金沢美術工芸大学
KANAZAWA COLLEGE OF ART

金沢美術工芸大学大学院美術工芸研究科修士課程

1. 教育目的及び入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

金沢美術工芸大学大学院美術工芸研究科は、「地域の美術工芸の伝統を踏まえ、美術、工芸、デザインにわたり、造形芸術に関する高度な理論、技術及び応用を研究教授し、その深奥を究めて、文化の創造、進展に寄与することを目的」としています（大学院学則第1条）。

大学院における前期2年間の修士課程では、広い視野に立って精深な学識を授け、芸術の各分野における創造、表現若しくは研究能力又は芸術に関する職業等に必要の高度な能力を養います。

このことから、大学院美術工芸研究科修士課程では、専攻ごとに、次のとおり教育目標を定め、個別の選抜試験を行っています。修得しておくべき知識、技能を「求める学生像」として専攻ごとに記載しています。

《絵画専攻 日本画》

教育目標

日本画を中心とした絵画において専門的かつ広い見識を深めるとともに、創造性に富んだ高度な内容の制作を積極的に研究します。また、各種展覧会への出品など発表活動も推奨し、自己の作品の評価を広く世に問い個性的表現の確立を目指します。さらに、理論的知識を深め伝統的な表現方法の研究を踏まえ、自由かつ独自の発想に基づき創造表現の世界を追究することで、多様化する新しい芸術の展開にも対応します。

求める学生像

- 日本画領域は勿論のこと、絵画表現全般における基礎的知識と技術を有する人
- 専門性の向上及び表現の修練と研鑽を通し、次世代の優れた表現を志す人
- 意欲的に研究成果発表を行い、広く社会に通じる絵画表現の展開を志す人

《絵画専攻 油 画》

教育目標

個性と表現の確立を目指し、現代の絵画表現に対応した教育研究を行います。研究制作の場では技法研究や見学・取材活動により芸術表現についての見識を深め、作品化に向けて着実に研究を進める姿勢を養います。また、学外における個展、公募展等の発表活動を奨励し、将来に向けた制作や専門領域の研究、留学についての助言を与え、作家、研究者として美術界や美術教育及び地域文化の発展に寄与する人材の育成に努めます。

求める学生像

- 絵画に関する知識と技術を用い、自主的に研究制作が行える人
- 高度な表現技術を求め、研究成果を国際的に発信する意欲を持った人
- 美術教育や地域文化の発展に高い目的意識を持って臨む人

《彫刻専攻》

教育目標

制作・研究活動での専門性の深化をより可能とするため、本専攻では、塑造、木彫、石彫、金属彫刻等の制作を行う「彫刻コース」と、コンセプチュアルな造形やジャンルを横断した造形等に対応する「環境彫刻コース」を設けています。両コースは、相互に交流を図りながら、自由かつ柔軟な発想で独創的な制作や研究活動を進めています。これらの活動の中で自身の能力を存分に発揮し、創造性を高め、作家、研究者、指導者として現代社会や芸術文化発展に貢献し得る人材の育成を目指します。

求める学生像

- 制作、研究意欲が旺盛で論理的思考力に優れ豊かな自己表現ができる人
- グローバルな視野を持ち、活動を世界に展開できる人
- 斬新な発想力を持ち、表現者や教育者として地域や社会に貢献できる人

《芸術学専攻》

教育目標

学部の教育方針を基盤としつつ、美学、日本美術史、東洋美術史、西洋美術史、工芸史の5つの専門分野を置き、学術的により高度な研究を行います。また、技法・素材の専門的、実際の情報が豊富な美術大学の特性を生かしつつ、金沢を中心とした美術館・博物館施設を活用した現場研修や展示企画も指導しています。国内外での実地調査や研究成果の公開を支援し、理論と実践を兼ね備えた美術の専門研究者の育成を目指します。

求める学生像

- 学部での成果をもとに、問題意識をさらに深めて学術的に追究することに意欲のある人
- 芸術学領域の専門研究に必要な語学力を有し、調査研究能力に優れた人
- 高度な学術的成果を芸術の専門分野で展開し、社会に貢献できる人

《工芸専攻》

教育目標

学部での研究制作を基礎とし、より高度な表現能力と論理的な思考力を身につけることを目標とします。演習に重点を置きながら論理的思考力を高めるための理論科目を設け、歴史的な考察や、素材と技術についての探究を通して各自の研究制作を強化します。常に時代を切り拓く創造的な表現を追究しつつ、多様化する現代の要求に対応し社会に貢献し得る作家、研究者、指導者の育成を目指します。

求める学生像

- 各専門分野に関する基礎的な技術と知識及び表現力を有する人
- 素材の可能性と表現について探究心旺盛で、これからの創造的な工芸の世界を切り拓くことに意欲のある人
- 作家・研究者及び指導者として広く社会に貢献し、活躍することを志す人

《デザイン専攻 視覚デザイン》

教育目標

幅広い視覚デザインの領域の中から、一人ひとりの研究計画に合わせて、専門性を持った教員が一丸となって指導にあたります。高度な社会性と国際性を修得し、実践的なカリキュラムを通じてクリエイティブに不可欠なアイデア発想能力とコミュニケーション表現技術を身につけることで、広い分野で活躍できるクリエイターの育成を目指します。

求める学生像

- 視覚デザインの専門性を深め、主体的に研究を追求する意欲のある人
- 斬新な発想力を持ち、柔軟性と独創性に優れ、もの作りに喜びを感じる人
- 社会との関わりを大切にし、人と人がつながる事に喜びを感じる人

《デザイン専攻 製品デザイン》

教育目標

デザイナーとしての明確な研究目標を持たせ、高度な水準の実証的デザインを推進し実現する力を養成します。教育にあたっては、教員それぞれの専門領域に根ざした論理的思考や、探究力、表現力、伝達力などを実践的な形で丁寧に指導しています。調査、企画、仮説モデルの展開と検証、1/1モデル制作等を徹底して追究し、時代をリードする完成度の高い製品提案を行える人材の育成を目指します。

求める学生像

- 製品デザインの技術や知識を磨いて、デザイナーとして活躍する目標を抱いている人
- 自分の目標とする主な製品デザイン領域をしっかりと考えている人
- 人の生活と向き合う真摯な態度と、デザイナーとしての創造力や独創力を発揮する意欲をもっている人

《デザイン専攻 環境デザイン》

教育目標

将来の活動領域に応じて空間デザインに関わる専門能力（構想する力、設計する力、表現する力）を確立・深化するため、指導教員がマンツーマンで研究制作活動を指導します。同時に、造形における幅広い知識と教養を身につけるため、共通選択科目により、国際的視野と領域拡大の基礎を養います。またコンペティションや地域連携事業を自主的な制作・発表の場と捉え、社会及び世界との関わりを重視したカリキュラムとしています。以上を修得した人材を送り出します。

求める学生像

- 空間デザインの専門性をさらに深めようとする人
- コミュニケーション力を養い、ディレクション能力を高めようとする人
- 実務的な能力を高め、社会との接点を見出そうとする人

2. 教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）

修士課程においては、美術、工芸、デザインに関する高度で自立した創作・研究活動を可能にするため、学生の個性に基づいた「多様化」を尊重し、表現の「自由化」と「言語化」及び教育の「高度化」を推進し、地域と国際社会における「社会化」を実践する能力の育成を教育の指針にしています。

教育課程においては、これらの教育の指針や各専攻の教育目標を具体化した演習、講義科目をコースワークとリサーチワークとして編成し、選択・必修科目として、各専攻・コースの専門性に沿って科目の配置を行い、『研究指導計画書』に基づいて指導を行っています。研究の集大成として修士作品又は修士論文を課し、研究成果の審査を行います。

3. 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

金沢美術工芸大学大学院美術工芸研究科は、大学院学則第1条において、「地域の美術工芸の伝統を踏まえ、美術、工芸、デザインにわたり、造形芸術に関する高度な理論、技術及び応用を研究教授し、その深奥を究めて、文化の創造、進展に寄与することを目的」としています。

大学院における前期2年間の修士課程においては、大学院学則第2条第3項で定められた目的、「広い視野に立って精深な学識を授け、芸術の各分野における創造、表現若しくは研究能力又は芸術に関する職業等に必要の高度な能力を養うことを目的とする」の達成のために、各専攻では具体的な教育目標を掲げています。

各専攻の教育目標に則って、次の3つの学修成果を修め、所定の単位数を修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえ、修士作品又は修士論文を提出して、委員会の審査及び試験に合格した者に、修士課程の修了を認定し、修士（芸術）の学位を授与します。

1. 絵画、彫刻、芸術学、工芸、デザインの各分野の制作や学術研究における高度で幅広い知識を体系的に修得・理解し、応用できる。
2. 固有の芸術領域における創作・研究に求められる高度で専門的な技術や論理的思考力を獲得し、表現活動又は研究活動を積極的に展開できる。
3. クリエーター・研究者として独創的で、自由な創作活動又は研究活動を行い、地域社会、国際社会に向けて有為かつ先端的な文化を発信できる。

令和2年度 金沢美術工芸大学大学院 美術工芸研究科（修士課程）学生募集要項

1. 募 集 人 員

美術工芸研究科修士課程

絵画専攻 10人 彫刻専攻 4人 芸術学専攻 4人 工芸専攻 9人 デザイン専攻 10人
計 37人

※デザイン専攻ファッションデザインコースについて、令和2年度以降の学生募集を停止します。

2. 出 願 資 格

- (1) 学校教育法第83条に規定する日本の大学を卒業した者及び令和2年3月卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者及び令和2年3月までに授与される見込みの者
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者及び令和2年3月までに修了見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び令和2年3月修了見込みの者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び令和2年3月修了見込みの者
- (6) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者及び令和2年3月31日までに授与される見込みの者
- (7) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者及び令和2年3月修了見込みの者
- (8) 文部科学大臣の指定した者
- (9) 本大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、令和2年3月31日までに22歳に達する者

※出願資格(1)～(8)に該当しない者のうち、出願資格(9)により出願を希望する者は、個別に出願資格の審査を行うので、令和元年10月11日(金)までに本学事務局へ必ず照会し、必要書類を令和元年10月21日(月)までに本学事務局に提出してください。

3. 出 願 書 類 等

- (1) 入学志願書・受験票（本募集要項に綴込んである所定の用紙を使用してください）
写真欄に3ヵ月以内に撮影した無帽上半身のものを貼付してください。
- (2) 研究計画書（本募集要項に綴込んである所定の用紙を使用してください）
- (3) 出願資格を証明する書類及び成績証明書等
 - ① 大学を卒業した者又は令和2年3月卒業見込みの者
出身大学の卒業（見込）証明書及び成績証明書（ただし本学出身者は不要）

② 出願資格(2)により出願する者

学位を授与された者については学位授与機構が発行した学士の学位授与証明書、授与見込みの者は学位授与機構が発行した学士の学位授与申請受理証明書及び基礎資格となる学校の成績証明書

(4) 入学考査料：30,000円

① 入学考査料は、本募集要項に綴込んである「振込依頼書」により必ず金融機関（ゆうちょ銀行は除く）の窓口から振込してください。依頼人の欄は、志願者本人の氏名を記入してください。

② 振込後の「振込証明書」の原本を提出してください。

(5) 返信用封筒（出願書類等を直接持参する者は不要）

定形封筒（長形3号）に志願者の郵便番号、住所、氏名を記入し、364円分の切手（速達料金分）を貼付してください。（外国に返信希望する者は、所定の国際返信切手を同封してください。）

(6) 「旅券の写し^{*1}」及び「日本語能力試験N2（又は2級）以上認定結果及び成績に関する証明書（原本）」（日本国際教育支援協会主催）

外国人出願者は、「旅券の写し」及び「日本語能力試験N2（又は2級）以上認定結果及び成績に関する証明書（原本）」を提出してください。（日本語能力試験N2（又は2級）以上未認定者は、必ず令和元年度日本語能力試験N2以上を受験し、結果通知書を提出してください。^{*2}詳しくは令和元年8月23日(金)までに本学事務局までお問い合わせください。）

※1 入学試験を受ける目的で、日本に入国するためには、自国の日本公館でビザ（査証）を申請することになりますが、必ず入国目的を「受験」のためとして、手続を行ってください。「短期滞在査証」が発給されます。

※2 結果通知書の総合点が合格基準に達していない場合は出願を取り下げさせていただきます。

○ 提出書類が外国語の場合は、日本語の訳を必ず添付してください。（様式任意A4判、英語の場合は本人翻訳可。それ以外の言語の場合は大使館等公的機関の証明を受けた翻訳文とする。）

○ 疾病などにより、入学試験や入学後の授業で特別な配慮を希望する者は、医師・校医等の作成した診断書を提出してください。

○ 官公署その他会社等に在職中の者は、所属長の受験許可書を添付してください。（様式任意A4判）

○ 現在、他大学大学院に在籍する者は、当該大学の受験許可書を添付してください。（様式任意A4判）

4. 出願受付期間

令和元年12月2日(月)～12月9日(月)

5. 出願提出方法

- 出願書類及び入学考査料の振込証明書を直接持参又は郵送により提出してください。
- 直接持参する場合の受付時間は、平日のみ9時～16時（土、日曜は受け付けしません。）です。
- 郵送する場合は、**書留速達**によるものとし、出願受付期間内の局消印を有効とします。また、封筒の表に「**修士課程入学願書在中**」と朱書きし、入学考査料の振込証明書を同封してください。

○ 送り先 〒920-8656 金沢市小立野5丁目11番1号 金沢美術工芸大学事務局

○ 問合せ先 TEL (076) 262-3531

6. 受 験 票

上記の出願手続きを行った者のうち、審査のうえ本学大学院が受験資格を有すると認定した者には、受験票を送付します。受験票が令和2年1月6日(月)までに到着しない場合には、1月8日(水)正午までに本学事務局へ連絡してください。

7. 試験日程及び試験内容

(1) 絵画専攻

専攻	コース	試験日時		試験内容及び持参用具
絵 画 専 攻	日本画 油画	1月20日(月)	10:00～16:00	作品提出 日本画…作品2点（1年以内に制作したものに限る。） ・平面作品（50号以上）、映像作品、立体作品等 ポートフォリオ 油画…作品2点（1年以内に制作したものに限る。） ・平面作品の場合：1点204cm×204cm以内、又は、 237cm×192cm以内（何れの場合も額縁付きの場合はその幅を含める。） ・映像作品の場合：1点10分以内（視聴に必要な機材と共に、操作の為の使用説明書を添えて提出すること。） ・立体作品/その他の場合：1点幅204cm×奥行き204cm×高さ237cm以内（作品設置に時間のかかる作品は避けること。） ポートフォリオおよび素描帳
		1月21日(火)	10:00～16:00	
		1月22日(水)	8:00～8:40	
			9:00～11:00	小論文 日本画…1,000～1,500字 油画…1,200字程度
			12:00～16:00	実技試験 日本画…毛筆画（着彩用具持参） 油画…人体を主としたデッサン又は着彩画（用具持参）
		1月23日(木)	9:00～12:00	
			13:00～	面接

(2) 彫刻専攻

専攻	コース	試験日時		試験内容及び持参用具
彫 刻 専 攻	彫刻 環境彫刻	1月20日(月)	10:00～16:00	作品提出 ・作品1点（1年以内に制作したものに限る。） ・ポートフォリオ 作品点数及び制作年は問わない。各作品の題名、制作年月、サイズ、素材等を記入すること。
		1月21日(火)	10:00～16:00	
		1月22日(水)	9:00～11:00	小論文（1,200字程度）
			12:00～16:00	実技試験…立体造形及び素描（描画用具持参）
		1月23日(木)	9:00～12:00	
				13:00～

(3) 芸術学専攻

専攻	研究分野	試験日時		試験内容及び試験方法
芸 術 学 専 攻	美学 日本美術史 東洋美術史	提出期間	9:00～16:00	論文提出 ・志望の研究分野（美学、日本美術史、東洋美術史、西洋美術史、工芸史）に関する論文（卒業論文等）又はその複写を3部提出すること。 論文には、2,000字程度の要旨を添えること。 ・受付場所：金沢美術工芸大学事務局 ・郵送又は運送に拠る場合は、封筒の表に「修士課程芸術学専攻試験論文」と朱書きすること。期間内の発送印を有効とする。 ※ただし、本年度に本学芸術学専攻を卒業見込みの者は、論文並びに要旨の提出は不要である。
		1月6日(月)		
		1月9日(木)		
	西洋美術史 工芸史	1月22日(水)	10:00～12:00	語学試験 （英語、フランス語、ドイツ語並びに古文（古文書を含む）及び漢文の4科目から2科目を選択する。）
			13:00～15:00	専門試験 （美学、日本美術史、東洋美術史、西洋美術史の4科目から2科目を選択受験する。）
	1月23日(木)	13:00～	口述試験	

(4) 工芸専攻

専攻	コース	試験日時		試験内容及び持参用具
工 芸 専 攻	陶磁 漆・木工 金工 染織	1月20日(月)	10:00～16:00	作品提出 ・作品2点（2年以内に制作したものに限る。） ・ポートフォリオ
		1月21日(火)	10:00～16:00	
		1月22日(水)	8:00～8:40	小論文（1,200字程度）
			9:00～11:00	
		1月23日(木)	12:00～16:00	実技試験 持参するもの 陶磁…筆記用具一式、着彩用具一式 漆・木工…筆記用具一式、着彩用具一式、 金工…着彩用具一式、筆記用具一式、コンパス、 金属製30cm定規 染織…定規類、鉛筆、コンパス、ハサミ、カッター、 着彩用具一式
			9:00～12:00	
13:00～	口述試験			

(5) デザイン専攻

専攻	コース	試験日時		試験内容及び持参用具
デ ザ イ ン 専 攻	視覚デザイン 製品デザイン 環境デザイン	1月20日(月)	10:00～16:00	作品提出 ・作品2点以上（2年以内に制作したものに限る。） ・ポートフォリオ （2年以内に制作した作品を2点以上含む。）
		1月21日(火)	10:00～16:00	
		1月22日(水)	8:00～8:40	実技試験 持参するもの 筆記用具一式（ただし、コンピュータは使えない。） ※製品デザインコースは着彩用具一式、直定規、三角定規、 コンパス ※環境デザインコースは製図板を除く製図用具一式、カッター、 金属製定規
			9:00～12:00	
		1月23日(木)	13:00～17:00	小論文（1,200字以内）
			9:00～11:00	
13:00～	面接			

◎ 注意事項

- (1) 作品・論文及びポートフォリオの提出に当たっては、所定の「提出作品・論文等添付用紙」を添付し、指定日時に持参（論文は郵送等可）してください。提出場所は受験票交付時に別途指示します。証明欄に指導教員の証明を得ることができない場合は、本人の能力を知る、第三者の証明を得てください。なお、「提出作品・論文等添付用紙」に記載不備がある場合は、作品等を受理しません。また、搬入出は本人立会いのもと各自の責任において行い、作品の返却は、面接後とします。
- (2) 集合時刻は試験開始20分前とします。集合場所は学内の掲示で確認してください。
- (3) 遅刻した者に対する、試験時間の延長は認めません。
- (4) 試験開始後30分を超えて遅刻した者は、受験することができません。
- (5) 駐車場がありませんので、車での来学はご遠慮ください。

8. 配点及び採点基準

(1) 配点

専攻	内 訳			合 計	備 考
	実技試験	提出作品	小論文		
絵 画	100	120	80	300	日本画／油画
彫 刻	100	120	80	300	彫刻／環境彫刻
デザイン	100	100	100	300	視覚／製品／環境

専攻	内 訳				合 計	備 考
	語学試験	専門試験	提出論文	口述試験		
芸 術 学	80	80	100	40	300	

専攻	内 訳			合 計	備 考
	実技試験	提出作品	小論文・口述試験		
工 芸	80	120	100	300	陶磁／漆・木工／ 染織／金工

(2) 採点基準

専攻	実技試験	提出作品	小論文	その他	
絵 画	日本画	提示されたテーマに則して発想力・表現力及びそれらについての独創性を評価する。	主題の明瞭性と個性的表現力及び表現における技術力を評価する。	日本画制作における理念並びに日本画領域の知識及び文章表現力を評価する。	研究計画書・成績証明書並びに面接は評価の参考とする。
	油画	提示された出題に対する理解力と発想力並びに高度な制作研究を可能にさせる描写力と造形性を評価する。	主題の独創性と造形性並びに表現技法における技術力と完成度に加え、現在に至る制作研究を評価する。	提示された主題に対する理解力と、論理的思考に基づく文章表現力及び研究分野全般に関する知識を評価する。	研究計画書・成績証明書並びに面接は評価の参考とする。
彫 刻	提示された課題に対する理解力、与えられた条件の下での柔軟な発想及び個性的な表現力を評価する。	現在に至る研究の成果を踏まえた表現力及び造形力、素材及び表現技法に関する専門性を評価する。	提示された課題に対する理解及び基本的な文章表現力、今後の研究を視野に入れた将来展望、計画性を評価する。	研究計画書・成績証明書並びに面接は評価の参考とする。	
デザイン	デザインテーマの解釈力、問題解決力、発想力、表現力、造形力、美的完成度など、デザインを実践する専門的な能力を総合的に評価する。	専門領域のデザインスキルを習得していること。異なる課題に対するバランスのとれたデザイン力を有することや、極めて突出したデザイン力の有無など、日頃の制作活動の質を評価する。	自分の専門とするデザイン領域の現在、及び将来について自らの思想や考えを論述する力を評価する。	研究計画書・成績証明書並びに面接は評価の参考とする。	

専攻	語学試験	専門試験	提出論文	口述試験	その他
芸術学	修士課程における研究に必要な専門的語学力を評価する。	修士課程における研究に必要な専門知識、芸術学領域の一般的基礎知識、与えられた課題から問題点を捉える力、論理的な文章の作成力、洞察力を評価する。	研究主題に関する基礎的理解、文献の正しい解釈、柔軟な思考を評価する。	提出論文及び語学・専門試験に基づく口述試験において、専門知識を適切に言語化する力、思考力、コミュニケーション能力を評価する。	研究計画書・成績証明書は評価の参考とする。

専攻	実技試験	提出作品	小論文・口述試験	その他
工芸	出題された課題に対する理解力、表現力、創造力及び各専門分野の制作に対する資質を評価する。	各専門分野における研究に必要な技術の習得度及び造形力、表現力、将来性について評価する。	出題されたテーマに対する考え方やその考えを言語化する力、論理的思考力を評価する。	研究計画書・成績証明書は評価の参考とする。

9. 選 抜 方 法

実技試験、提出作品、小論文の得点を合計して総合得点とし、総合得点の上位から順に合格者とします。なお、芸術学については語学試験、専門試験、提出論文、口述試験の得点を合計して、工芸については実技試験、提出作品、小論文・口述試験の得点を合計して総合得点とし、総合得点の上位から順に合格者とします。

10. 試 験 場 所

石川県金沢市小立野5丁目11番1号 金沢美術工芸大学

11. 合 格 発 表

令和2年1月31日(金) 午前10時

- 合格者の受験番号を学内に掲示するとともに、合格発表日の午前11時（予定）から本学ホームページに掲載します。また、合格者あて合格通知書及び入学手続きに関する通知を郵送します。（可否の問い合わせには一切応じません。）

URL <https://www.kanazawa-bidai.ac.jp/>

12. 入学手続期間（全専攻共通）

令和2年2月3日(月)～2月7日(金) 9:00～16:00

- 入学手続場所 本学事務局
- 期間内に入学手続を完了しない場合は、入学を辞退したものとして取り扱います。

13. 入学金・授業料

(1) 入 学 金	金沢市内居住者及び本学卒業者	282,000円	} (入学手続き時に納入)
	上記以外の者	423,000円	

※ 「市内居住者」とは、次のいずれかに該当する者をいいます。

- ① 入学の日の1年以前から引き続き金沢市内に住所を有する者
 - ② 入学の日の1年以前から引き続き金沢市内に住所を有する配偶者又は1親等の親族のある者
- (2) 授 業 料 年額 535,800円 (前期・後期に分割し、4月及び10月の末日までに納入)

14. その他の納入金

成美会会費 (後援会費)	30,000円 (入学手続き時に1回限り納入)
自治会会費	5,000円 (入学手続き時に1回限り納入)

※ 入学金等は、改定される場合があります。

※ 在学中に授業料が改定された場合には、改定時から新授業料が適用されます。

※ 願書受理後は、いかなる理由があっても書類の変更及び入学考査料の返還を受付けません。
また、納入した入学金等も返還しません。

15. 個人情報の取扱い

独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律 (以下「個人情報保護法」という。) に基づき、本学が入学者選抜を通じて取得した個人情報の利用については、次のとおりです。

(1) 利用目的について

- ①入学手続きに係わる業務
- ②入学後の学籍管理等の修学に係わる業務及び健康診断等の保健管理に係わる業務
- ③入学金及び授業料徴収等の納付金管理に係わる業務
- ④1年次における入学金免除及び授業料免除並びに奨学生選考等の修学支援に係わる業務
- ⑤個人が特定できない形で統計処理等の付随する業務及び入学案内業務並びに本学における入学者選抜に関する調査研究

(2) 第三者への個人情報の提供について

本学が取得した個人情報は、個人情報保護法第9条に規定されている場合を除き、出願者本人の同意を得ることなく他の目的で利用し、又は第三者に提供することはありません。ただし、次の場合必要最低限の情報を提供することがあります。

- ①上記(1). ①～⑤の個人情報を取扱う業務を、個人情報の適切な取扱いに関する契約を締結したうえで、外部の事業者へ委託する場合
- ②本人の利益となる次の学外関係者に情報提供する場合
 - 1) 同窓会
 - 2) 成美会

指 導 教 員

専攻	コース 研究分野	担当教員	主な研究内容
絵 画	日 本 画	松崎 十朗 教授	日本画制作における金属箔・泥等の素材研究及び水・光・時間を主なテーマとする絵画表現研究
		佐藤 俊介 教授	「徹底した写生」「日本画と情報機器の発展的関係」を軸にした、時代に対する強度及び普遍性を有す日本画制作研究
		荒木 恵信 准教授	自身の主題にそった日本画制作研究、文化財の保存修復に関する研究、絵画材料や技術・図様など絵画表現の分析及び模写研究
		よしだぎょうこ 准教授	専門指導領域として、日本を含む東アジア独自の美術概念をベースにした、即戦力のある現代美術作品制作及び論考・展示表現
		石崎 誠和 准教授	実感を基盤とした日本画の制作研究と文化の混淆による新たな絵画制作原理の研究
	油 画	三浦 賢治 教授	油彩画技法による絵画表現及び古典絵画技法・材料の研究
		大森 啓 教授	現代における絵画表現及び技法・材料の研究
		鈴木 浩之 准教授	絵画及び映像表現作品制作研究
		高橋 治希 准教授	絵画及び立体・空間表現作品制作研究
		岩崎 純 准教授	ミクストメディアによる絵画表現及び壁画制作に関する技法・材料の研究
彫 刻	彫 刻 環 境 彫 刻	中瀬 康志 教授※	現代社会の多様な関係性の考察による表現（活動）、並びに多素材による平面・立体両方面からの彫刻的手法による表現の研究
		石田 陽介 教授	彫刻制作について具象、特に人体を中心とした塑造及び木彫の表現、並びに素材・技法の研究
		土井 宏二 教授	土を主な素材とした彫刻作品制作、並びに塑造全般に関する表現の研究
		浜田 周 准教授	金属彫刻作品制作における金属加工技法、並びに金属素材の複合表現の研究
		芝山 昌也 准教授	日本に根差した今日的な彫刻の制作と近現代日本彫刻の調査研究、並びに石材をはじめとした多様な素材・技法の研究
芸 術 学	美 学 日 本 美 術 史 東 洋 美 術 史 西 洋 美 術 史 工 芸 史	神谷 佳男 教授	17世紀フランスの銅版画家アブラーム・ボスの銅版画技法書に関する研究及び版画創作
		保井 亜弓 教授	近世北方美術及び版画史を中心とした西洋美術領域の研究
		菊池 裕子 教授	脱植民するアジアの視覚物質文化史としてのアート・工芸・デザイン史・文化交流史
		水野 さや 准教授	日本・東洋美術史分野の研究
		星野 太 講師	崇高論を中心とする美学・芸術理論
工 芸	陶 磁	山本 健史 教授	陶磁の表現及び理論の研究、ろくろ・型成形を応用した表現及び空間研究、有機物を利用した土のマチエール研究、釉着と釉彩の研究
		池田 晶一 教授	陶磁の表現及び理論の研究、陶磁におけるデジタル工作機器の活用、石膏型鑄込み等の反復生産技術の研究、公共空間の芸術表現研究
		宮永 春香 講師	陶磁の表現及び理論の研究、陶磁における美術表現及び空間表現の研究、粉体成形を主とした窯業技術転用研究、陶磁釉薬の研究

専攻	コース 研究分野	担当教員	主な研究内容
工 芸	漆・木工	田中 信行 教授	主に乾漆技法による漆造形表現及び理論の研究、塗りの造形の研究、日本及びアジアにおける造形的特質の研究
		山村 慎哉 教授	漆の伝統技法から現代の技術を応用した幅広い制作方法及び工芸における意匠と漆芸の可能性の実践
		青木 千絵 助教※	漆造形表現及び理論の研究、乾漆技法並びに髹漆技法の研究、現代美術における人体を主とした彫刻的乾漆表現の制作研究
	金 工	畠山 耕治 教授	鑄造造形表現における理論から制作への実践と空間における金属素材の多角的な可能性の研究
		原 智 教授	鍛金造形表現及び理論の研究、金属加工技術並びに金属着色技術全般の研究、伝統的表現技法と現代の工芸に対する研究
		水代 達史 講師	彫金造形表現及び理論の研究、金属造形並びに加飾技法全般の研究、現代美術における金属工芸表現の研究
	染 織	大高 亨 教授	染織の表現及び理論の研究、織の組織及び紋織技法の制作研究、テキスタイルデザイン及びデジタルテキスタイルの制作研究
		足立 真実 准教授	染織の表現及び理論の研究、各種織物技法の制作研究、天然染料による染色の研究
		加賀城 健 准教授	染織の表現と理論の研究、各種染色技法による制作研究、染色における美術表現及び空間表現の研究
デ ザ イ ン	視 覚 デザイン	工藤 俊之 教授※	広告コミュニケーションとアートディレクションに関する研究
		寺井 剛敏 教授	ブランディング、環境グラフィック、プロモーション領域の研究
		鈴木 康雄 教授	写真・映像領域及び素材表現に関する研究
		坂野 徹 准教授	インフォグラフィックス、印刷、本のデザインに関する研究
		下浜臨太郎 講師	グラフィックデザインとメディアアートの融合に関する研究
	製 品 デザイン	村中 稔 教授	UXデザインプロセスを基盤としたプロダクトとインターフェイスデザイン開発及びコンセプト表現のためのイメージ制作の研究
		浅野 隆 教授	モビリティに関するデザイン研究
		河崎 圭吾 教授	家電製品のデザイン研究
		安島 論 教授	社会課題とデザインの関係、イノベーションメソッドに関する研究
		根来 貴成 准教授	インテリア・オフィス・コントラクトにおける家具デザインの研究
	環 境 デザイン	角谷 修 教授	文化施設の展示環境、商環境とサイン計画の空間デザイン領域に関する研究
		鏑 隆弘 教授	自然環境保全、都市景観のデザイン、公園や緑地などの屋外公共空間のデザイン、庭園デザイン、古い庭園の調査に関わる研究
		畷野 裕司 教授	パッケージデザインと商業空間に関する研究
		北村 賢哉 准教授	くらし空間領域のプロダクトデザイン研究・連携と横断によるデザイン教育の研究
	共 通	村山 祐子 准教授※	ファッションデザインを基軸としたライフスタイルのあり方に関する研究

一般教育等 理論指導	青柳 りさ 教授 大谷 正幸 教授 稲垣 健志 准教授	高橋 明彦 教授 荷方 邦夫 准教授	桑村佐和子 教授 渋谷 拓 准教授
---------------	-----------------------------------	-----------------------	----------------------

※中瀬 康志 教授（令和3年3月退職予定） ※工藤 俊之 教授（令和3年3月退職予定）
 ※村山 祐子 准教授（令和3年3月退職予定） ※青木 千絵 助教（令和3年3月退職予定）

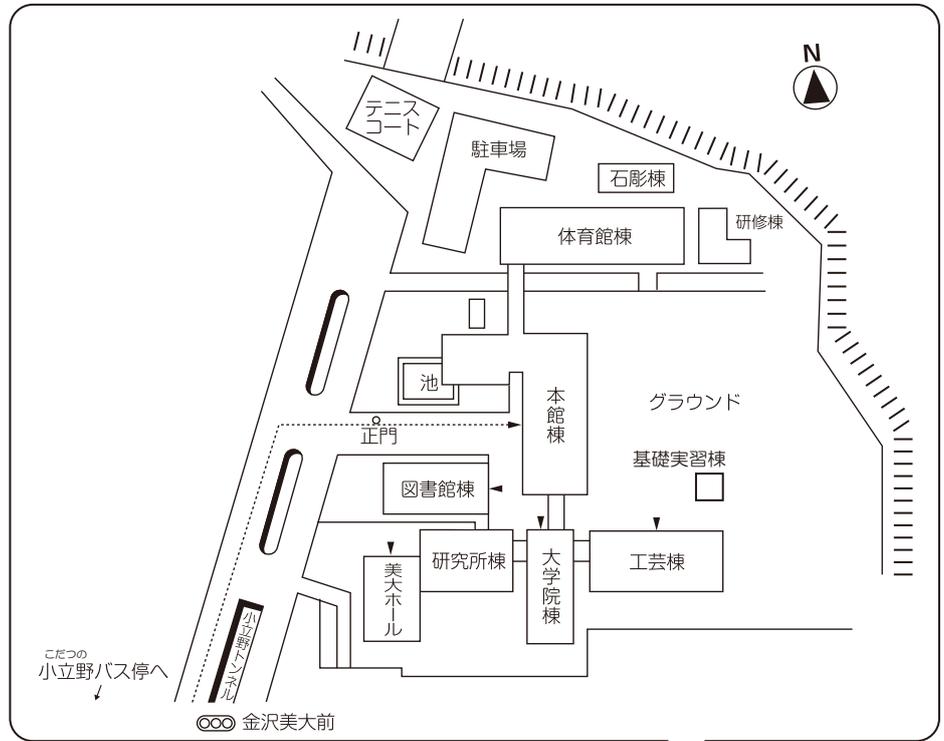
令和2年度金沢美術工芸大学大学院美術工芸研究科
(修士課程) 入学者選抜試験日程

専攻コース等	絵画専攻	彫刻専攻	芸術学専攻
	・日本画 ・油画	・彫刻 ・環境彫刻	
出願受付	令和元年12月2日(月)～9日(月)		
作品(論文)提出	令和2年1月20日(月) ～1月22日(水)	令和2年1月20日(月) ～1月21日(火)	令和2年1月6日(月) ～9日(木) (論文提出)
試験	令和2年1月22日(水)～1月23日(木)		
合格発表	令和2年1月31日(金)		

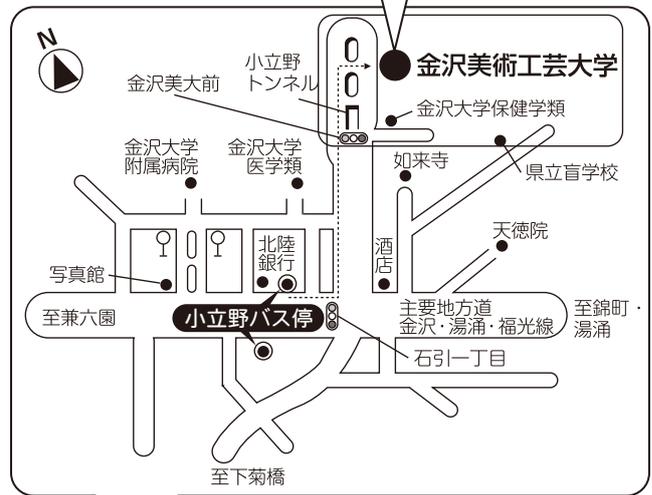
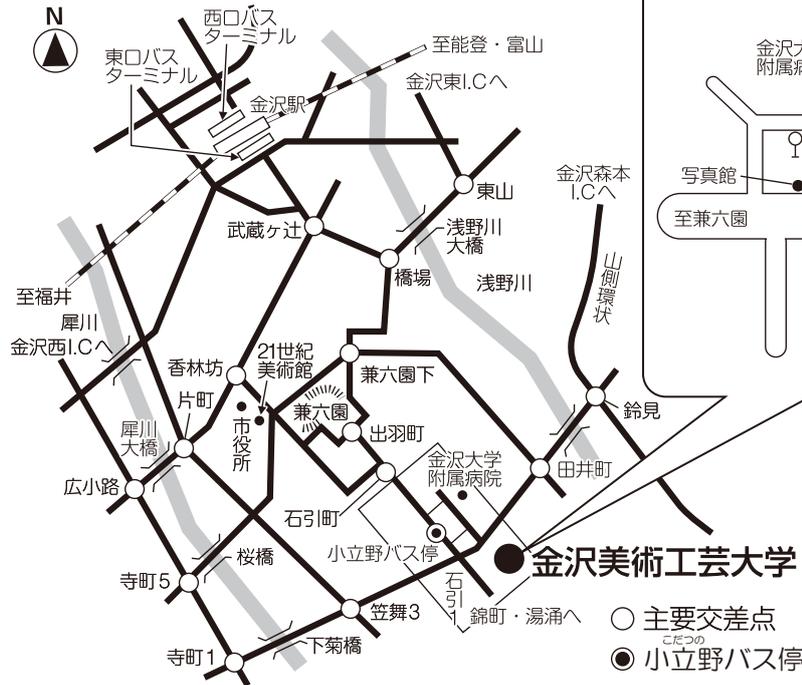
専攻コース等	工芸専攻	デザイン専攻
	・陶磁 ・漆・木工 ・染織 ・金工	・視覚デザイン ・製品デザイン ・環境デザイン
出願受付	令和元年12月2日(月)～9日(月)	
作品提出	令和2年1月20日(月)～1月22日(水)	
試験	令和2年1月22日(水)～1月23日(木)	
合格発表	令和2年1月31日(金)	

◎ 注意事項 ―― 出願は、土曜、日曜、指定時間外には受付しません。

●キャンパスレイアウト



●交通アクセス



大学への交通

- 電車/金沢駅下車
- バス/金沢駅東口(兼六園口)バスターミナル 7番のりば
 - ① 東部車庫行、① 金沢学院大学行、
 - ② 湯涌温泉行、② 北陸大学薬学部行、② 北陸大学太陽が丘行、
 - ⑥ 駒帰行 (乗車約25分)
 金沢駅東口(兼六園口)バスターミナル 6番のりば
 - ⑬ 湯谷原行、⑭ 田上住宅行 (乗車約25分)
 金沢駅西口(金沢港口)バスターミナル 5番のりば
 - ⑩ 東部車庫行、⑩ 金沢学院大学行、⑬ 湯谷原行 (乗車約25分)
 いずれのバスも「小立野(こだつの)」で下車してください。(徒歩約8分)
- タクシー/金沢駅から約20分
- 自動車/北陸自動車道
 - 金沢森本ICから約15分
 - 金沢西ICから約25分
- 航空機/小松空港から
 - バス/リムジンバス (乗車約40分)
 - 金沢駅下車 (乗り換え、東口、西口から電車の場合に同じ)



金沢美術工芸大学

KANAZAWA COLLEGE OF ART

公立大学法人 金沢美術工芸大学

〒920-8656 石川県金沢市小立野5丁目11番1号
TEL 076-262-3531 FAX 076-262-6594

5-11-1 Kodatsuno Kanazawa Ishikawa
920-8656 Japan
TEL +81-76-262-3531 FAX +81-76-262-6594
<https://www.kanazawa-bidai.ac.jp>

